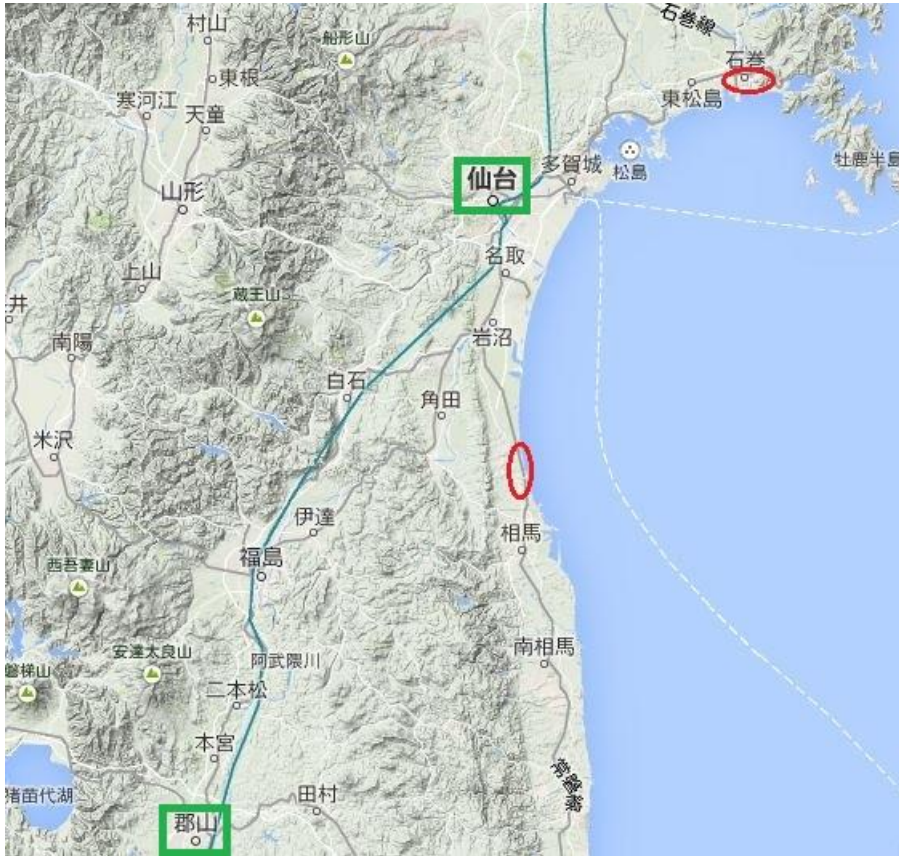


建築士会全国大会 IN 福島：被災地状況



今回、二泊三日のスケジュールを計画し、大会参加以外にも時間にゆとりがあるので、東日本大震災の津波被災地へ足を運びました。ちなみに、福岡空港から直通便のあった仙台空港を利用して、移動はレンタカーで大会開催地の福島県郡山市へ向かう行程を組み、その道中や最終日に被災地を見て廻りました。

初めて目の当りにした被災地の状況に絶句…。ここに本当に町があったのかと、辺りに残っている建物の基礎や面した道路から、当時の町の形跡が何となく想像できる程度で、三年と半年が経過した今も復興が手付かずの地域があり、想像を絶する光景でした。

また、大会前日に参加した建築士フォーラムの東北ブロックのブースでは、岩手建築士会の方達が「風化させない」ための思いを熱く語っていました。

得た経験や教訓を後世に活かして、今後さらに「防災大国」として世界に発信していける日本となってほしいと思います。

記事作成：是本昭善

●平成26年10月23日（大会前日）

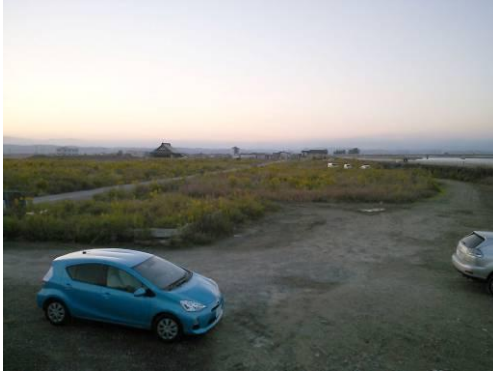
移動ルート：仙台空港 ⇒ 名取市 ⇒ 岩沼市 ⇒ 亶理郡亶理町 仙台湾南部海岸「荒浜海水浴場」（写真）



海岸沿いに見渡す限り続く防潮堤、訪れた場所の高さは大凡5m。東北と関東の沿岸で総延長約400キロもの計画。大津波に備える防潮堤の予算が1兆円の事業。住民から「景観を損なう」「無駄遣いだ」との声もある様で…複雑な心境。

●平成26年10月24日（大会当日）

：相馬市の北（福島と宮城の県境）海岸沿い「防潮堤」・JR常磐線沿い（未だ不通区間あり）「山元町立中浜小学校」



こちら海岸沿いに防潮堤が永遠と続いており、土工事車両のトラックが途絶えなく走っていました。何も無いところにポツンと残る小学校の校舎…、付近には住宅が密集して建ち並んでいたと思われます…。

●平成26年10月25日（大会翌日）

ルート：松島 → 塩竈市「仙台塩釜港（仙台港区）」 → 石巻市へ

「仙台塩釜港（石巻港区）」 → 「石巻漁港」方面へ「石巻市立門脇小学校」校舎の被災建物が残る



「ありがとうハウス」を掲げ被災地に留まる男性に会いました。奥さんを津波で亡くしており、「まだ見つからない…」と寂しげに話しながらも、訪れる人皆さんに自分が果たすべき使命としての思いを熱心に伝えていました。

日本は大きな災害に見舞われましたが、人間関係が希薄な時代に「絆」の重要性を教えられた様に思えて、なりません…